

音楽学校潜入レポート

さて、メーザーの学校潜入レポートは、池尻大橋にこの人ありの名物講師、鈴木宏幸先生の授業の模様をお届けしよう。学生たちに聞いた中でも、「あの先生は最高」の声も多かったこの先生、いったいどんな授業なのかつ。気になるぞつ。



▶鈴木宏幸先生「面白いかどかほどもかく、5分に1度ギャグを飛ばすその姿勢はすばらしい」

「お笑い芸人よりも面白い」と学生の人気も高い、ベテラン鈴木宏幸先生のエレクトリック・ギター1の授業を見学した。

これは2年生の最初の授業で、これまで1年間学んだ、理論、コード進行などの方法論を生かして、その応用として、ブルースのアドリブをやってみようという内容である。

ちょっぴり広めのスタジオに、生徒が7人。本当はワンツーマンで物を教

えるには、5人位がちょうどよいというのか鈴木先生の意向なんだそうだがどーしても鈴木先生に教わりたいという生徒が多いので、許容範囲を少し越えたこの人数になったとのこと。

「RED BARON」というブルースの名曲がこの日の練習曲。打ち込みのカラオケに合わせて、まず鈴木先生がお手本として弾き、そのあとワンコードづつ先生が弾いては、生徒に何度も繰り返させるという懇切丁寧な指導法。実にわかりやすい授業である。

「じゃ、次はこの三連のどこやってみましょう。ボディコンの女の人の髪の毛が…あ、あれはワンレンか」などといったくだらなさすぎる鈴木先生のギャグの連発が、そのあまりのしょーもなさゆえに笑いを誘う。この授業おさまりのギャグも多数あるらしく、時には生徒の側から先生のギャグに突っ込みをいれる場合もあったりして、表にアットホームで楽しい授業である。

ひとりメロディラインを練習したあとは、ひとりずつ自由演技（アドリ



まず、先生が課題曲のお手本を弾く。じっと見つめる生徒達の目は獲物を狙う獲物のように真剣だ。



ワンフレーズずつ、先生のあとについて弾いてみる。うーん、難しい……。



関係ないかメーザーにはかわいい女の子が多かった。こういう時「取材に行つてよかった」と思う。



ひとりひとり、やさしくレッスン。「お前、月餅抜いたか？」こんな時でもギャグを飛ばない鈴木先生

ブ) を入れての実演発表。この日初めて聞いて、さっき練習したばかりの曲なのに、みんなさすがにうまい。やはり、1年間の勉強の成果が出ている感じた。もっと関心したのは、鈴木先生のひとりひとりへのやさしい心遣い。ちょっぴり下手な生徒でも、いいところを見つけて、丁寧に真剣にレッスンをしてくれる。うーん、こんな先生に教わったら、はくもきつとギターがうまくなるだろーなーと、うらやましくなってしまうよ。



目指せ音楽

ギャグをはさみながらやさしくレッスン
こんな楽しい授業なら、ギターもきっと上手くなる